


## リサーチグループ登録届出書

平成 24 年 1 月 27 日

## 1. グループの概要

グループの名称	水文科学リサーチグループ
分野名	水文科学
設置場所	総研棟A322 水文科学実験室
設置予定期間	2012年4月1日から2017年3月31日

## 2. 研究代表者

所属・職名	生命環境系・教授
(ふりがな)	すぎたみちあき
氏名	杉田 倫明 

## 3. 連絡先

所属・職名	生命環境系・教授
氏名	杉田 倫明
電話	029-853-2537
FAX	029-853-6879
E-mail	<a href="mailto:sugita@geoenv.tsukuba.ac.jp">sugita@geoenv.tsukuba.ac.jp</a>

## 4. 担当部局(当該グループの運営等を管理する部局名)

生命環境科学研究科 地球科学専攻

グループ名	水文科学研究グループ				
グループ名(英語)	Hydrologic Science Research Group				
分野	参考: 1. 人社系、2. 理工系、3. 生物系、4. 複合系のうち、該当の番号を記載してください。				2
科研費細目番号	主なものから順番に3つまで記載してください。		4402	2001	1901
キーワード(5つまで)	水文科学	水循環	水環境	陸域環境	地球環境
キーワード(英語)	Hydrologic Science	Hydrologic Cycle	Water Environment	Terrestrial Environment	Global Environment
グループのHP:URL	<a href="http://www.geoenv.tsukuba.ac.jp/~hydro/">http://www.geoenv.tsukuba.ac.jp/~hydro/</a>				
代表者名(英語)	杉田倫明 (Sugita, Michiaki)				
]					
氏名	所属機関	職名 (任期)	専門分野	学位	役割分担
杉田倫明	生命環境系	教授	水文科学	理学博士	グループ代表者
浅沼 順	生命環境系	教授	水文科学	Ph.D	
辻村真貴	生命環境系	准教授	水文科学	博士(理学)	
山中 勤	生命環境系	准教授	水文科学	博士(理学)	
<b>グループ概要(100字程度)</b>					
水文科学研究グループは、地球科学専攻、環境科学専攻および陸域環境研究センターを担当する教員から構成されます。斜面、流域、地球規模の水循環プロセスを研究対象として、環境、地形、地質や生態系との関係、気候との相互作用を明らかにすることで、環境研究の一翼を担う研究活動を行っています。					
<b>グループ概要(英語)</b>					
Hydrologic Science Group focuses on the water cycle and hydrologic processes such as rainfall-discharge, evaporation, infiltration into the ground, and recharge to groundwater, and their role on the environments through transport and storage of heat, pollutants, dissolved inorganic compounds, carbon dioxide, etc. within watersheds, continents and of the earth. Field observations are the main methodology of investigation but laboratory analysis and experiments as well as computer simulation are also major tools of our group. Current research fields consist not only various domestic regions but also overseas countries such as Mongolia, Egypt, Thailand, Tunisia, and so on.					
<b>設置の目的及び必要性</b>					
本リサーチグループは、小スケールから地球規模までの水文過程、その環境との相互作用の現状を把握するとともに、モデル化による過去の復元、将来の予測を行うことで、基礎科学の発展と社会への貢献を測ることを目的とする。この目的を効率よく達成するためには、専門生を有する関連研究者がグループを形成することが有効である。					
<b>研究計画</b>					
以下の諸課題の解明を進める。 ・水文過程の各プロセスのメカニズムの解明 ・水収支に基づく、対象地域のフラックスと貯留量、滞留時間の解明 ・水文現象と環境との相互作用の解明 このために、具体的な研究フィールドでの観測、実験、データのモデル化を進める。					
<b>研究・教育に期待される効果(箇条書き)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水文科学の諸分野の精緻化と関連諸分野との連携の強化</li> <li>・必要に応じた大型プロジェクトの立案とそのための外部資金獲得</li> <li>・学類から大学院までの地球科学、環境科学の一分野としての水文科学の教育の体系化と共同教育体制に基づく優れた人材育成</li> <li>・次世代の水文科学の教育と研究を担う人材の育成</li> </ul>					